

知的資産経営報告書2012

确实・安心なロジスティクスサービスで
お客様に貢献し、社員の幸せを実現する。



イノウ運輸株式会社

(5) 全国輸配送に最適な本社立地

本社倉庫は墨田区向島にあり、複数の首都高インターチェンジから至近距離にあります。1号線入谷に10分、6号線向島4分、駒形7分、堤通10分、7号線錦糸町に10分の距離で、都内配達や全国への輸送拠点として最適な立地です。



図表9：首都高ICまでの時間（出典 Google Map）

(6) 人材採用方針

当社の人材採用方針における絶対条件は、「真面目で誠実な人柄であること」です。イノウ運輸の仕事のサークルに示しましたように、当社がサステイナブルに存続していくために私たちが果たすべき基本的責務は、日々の仕事を真面目にコツコツきちんと積み上げていくことです。そのため、採用においては、業務経験があることはもちろん望ましいですが、それ以上に真面目で誠実な人柄であることを重視しています。

そのようなイノウ運輸社員に対して、お客様からも、社員の人柄がよく感謝の気持ちを持っているとありがたいお言葉をいただいています。

(7) ベテラン社員の活躍

当社では多くのベテラン社員が活躍しています。まず、ドライバーとしては高齢になってきた社員を倉庫部門や製造加工部門に配置転換し、それぞれが年齢に適応した業務で活躍しています。また、営業員も物流業界での経験が豊かで、お客様の課題を的確に把握し解決の提案ができるベテランです。

当社では、60歳定年後も希望者は再雇用しています。さらに、他社で定年を迎えて当社に再就職をする社員もいます。そのような社員も工場等前職での経験や人脈を活かして活躍をしています。

この知的資産経営報告書の作成にあたっては、事業環境の認識と自社の強み・弱みの抽出に、中



図表10：社員による知的資産経営報告書作成打合せ

堅ベテラン社員6名が参加しました。

(8) 倉庫業務、製造加工ノウハウ

倉庫業務においても、ベテラン社員による迅速な入出庫を実現しています。それを支えているのが、自社開発した在庫管理システムです。これにより在庫状況のリアルタイムな把握が可能となっています。

また、お客様の荷をお預かりするにあたって、盗難に対するセキュリティは私たちの責任です。当社では、厳重な施錠等のセキュリティはもちろん、倉庫とセコム(株)の監視センターとをネットワークで結び、24時間の遠隔監視を行っています。

製造加工においては、鹿沼工場が(株)東芝認定の工場となっており、整備された管理機構を有しています。



図表11: 倉庫業務の様子

(9) コストダウンノウハウ (成功事例)

当社は、お客様の物流コストを削減できるノウハウを蓄積しお客様にお役立ちしています。お客様の物流コストダウンに成功した事例を2例紹介します。

① A社——倉庫業務アウトソーシング

A社との取引は当初トラック月10台程度の依頼を受けていた状況でした。A社は貸倉庫を利用し従業員を3人選任で配置していましたが、この倉庫賃料と人件費がA社にとって大きな負担となっていました。この解決策として、当社本社倉庫を使ったアウトソーシングのご提案をさせていただきました。

A社からはご提案に対する高い評価をいただき、ご採用いただくことができました。その結果、A社が払っていた賃借料と3人の従業員人件費はイノウ運輸の保管料にかわり、A社にとって約3割のコストダウンに成功しました。当然トラックはイノウ運輸の倉庫から出発することになり、物流効率も向上しました。

② B社——流通加工アウトソーシング

B社との取引はトラック月1～2台から始まりました。以降徐々にご信頼をいただき、トラック台数を増やして頂きました。

きっかけはある日ご担当者の方から相談を頂いたことでした。既存の流通加工会社が B 社の流通加工から撤退することになって困っているというものでした。当社はそれをお請けしトラック輸送から流通加工へと B 社とのお取引を拡張することができました。

その実績が評価され、次に B 社からいただいたご相談は、やはり既存の流通加工会社 X 社に納期遅れが多く困っているというものでした。調べてみると、X 社の B 社業務は不採算になっており、X 社自身も撤退を希望していることがわかりました。そこで当社は、X 社から B 社業務のノウハウを持つ人材の移管を受けたうえで、流通・加工作業工程を抜本的に見直して改善を行い、当社として利益がでる業務に仕立てて、業務を引き継ぐことに成功しました。

このように、単にコストダウンを飲む形ではなく、輸送から保管、加工に至るロジスティクスサービス事業ポートフォリオの中で、お客様の課題をトータルに考えて改善提案をしてコスト削減するノウハウはイノウ運輸の大きな強みです。

(10) グリーン経営

トラック運送業にとって、大気汚染や騒音、CO₂排出などの環境問題に取り組むことは社会との関係における責務です。当社は、環境保全に関して一定レベル以上の取組みを行っている事業者に対し、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が審査の上認証・登録を行う制度「グリーン認証」の認証・登録を受けています。

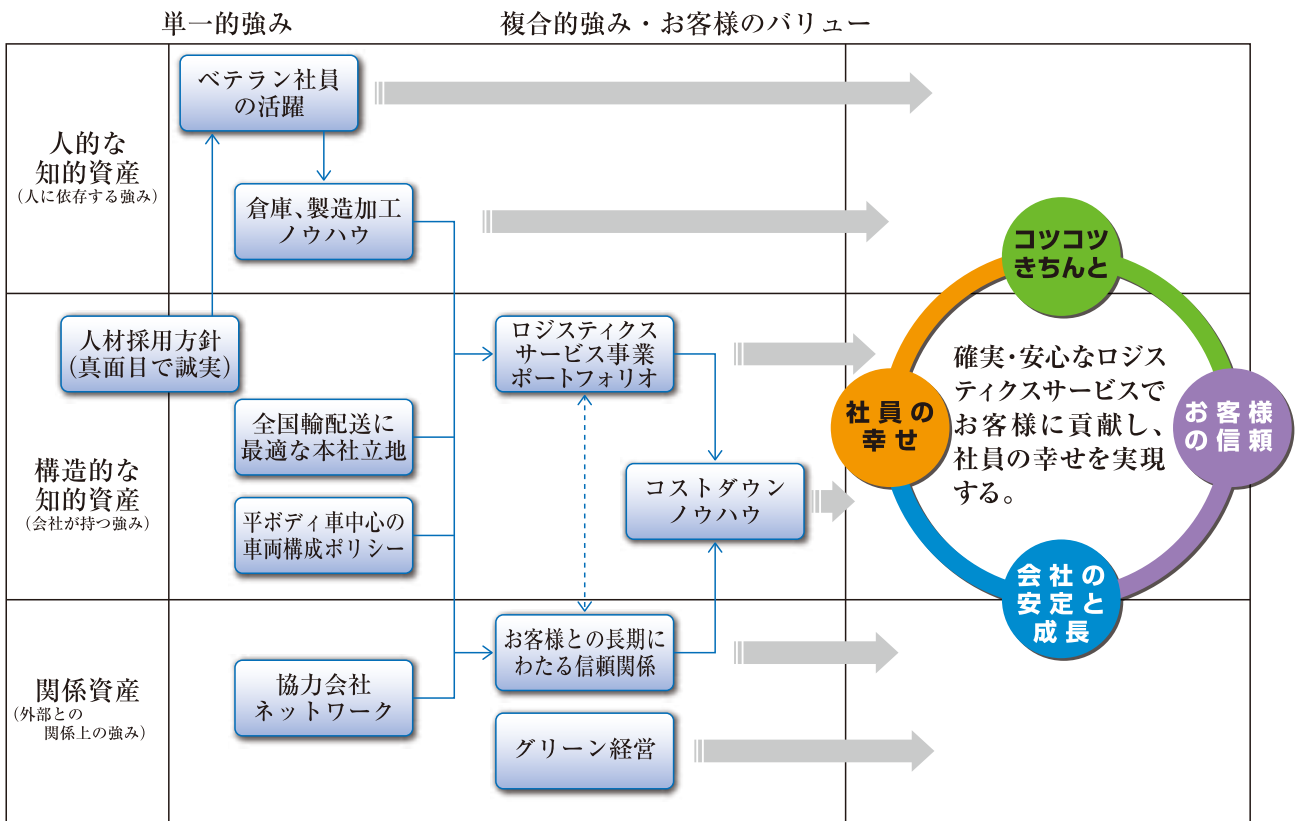
トラック事業者の認証は 2003 年に始まりましたが、当社はその初期に認証を受け、以降 2 年ごとに審査を受けて更新を継続してきており、全社でグリーン経営を実践しています。



図表 10：グリーン経営登録証

(11) イノウ運輸の知的資産

以上述べてまいりました当社のこれまでの経営方針を知的資産²の観点から整理したのが図表 13 です。立地や特徴ある車両構成、協力会社ネットワークによる競争力あるトラック運送業務をベースに、ベテラン社員の経験やノウハウを活用して保管や加工を含むロジスティクスサービスに業容を拡大してまいりました。それによりお客様との長期にわたる信頼関係を築き、経営理念である「確実・安心なロジスティクスサービスでお客様に貢献し、社員の幸せを実現する。」ことの実現に努力してまいりました。



図表 13：イノウ運輸の知的資産

² 知的資産：企業が持つ無形の資産、目に見えにくい経営資源、強みの総称。

- ・ 人的な知的資産（人的資産）：従業員に依存する知的資産。従業員が退職時には一緒に持ち出す資産。
- ・ 構造的な知的資産（構造資産）：組織としての会社が持つ知的資産。従業員が退職しても企業内に残留する資産。
- ・ 関係資産：外部との関係上の資産。企業の対外関係に付随した全ての資産。

4. 知的資産経営の今後の展開（現在～未来）

(1) ベテランから若手への技能承継

当社の人員構成は、ベテラン世代と若手～中堅世代にやや二極化の傾向があり、ベテラン世代の持つ豊富な業務経験、ノウハウ、技術（あわせて「技能」と呼びます）が必ずしも次世代に十分には引き継がれていません。この点は当社の持つ重要な課題です。

平成 24 年度においては、ベテラン社員ひとりひとりが持つ技能を次世代に承継するために、技能の「見える化」を行ってまいります。具体的には、OJT³による教育と業務マニュアルの作成を行います。マニュアル作成ができるだけ社員の負担にならないよう、今やっている仕事を具体的に書き出す、いわば「今やっていることリスト」を作成することから始めます。最初から完璧な業務マニュアルを目指すのではなく、本人がやっていること、持っているものをとにかく可視化・見える化するところから取り組んでまいります。

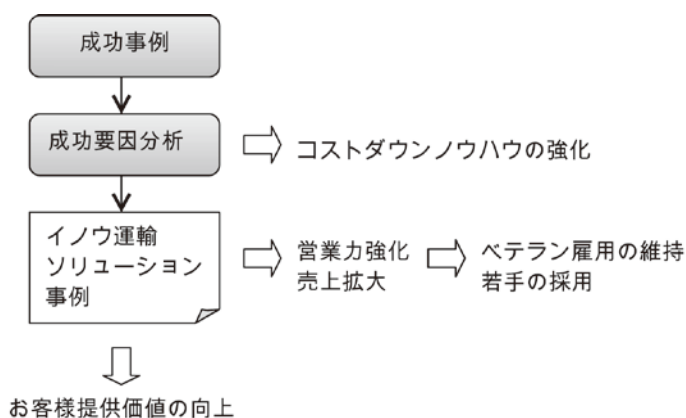
この取り組みによって、ベテラン社員個人に帰属している強みを組織として持てるようにする、いわば人的資産の構造資産化をおこない、強みとしての強化をはかってまいります。

(2) 成功事例の分析・ソリューション事例化

前節で述べました A 社 B 社事例のような、小規模なトラック運送から始まり、運送から保管・加工に至る事業ポートフォリオの中でお客様の課題をトータルに考えて改善提案をしてコスト削減を果たしていく事例は、今後のイノウ運輸がお客様にご提供していくべき大きな価値です。

平成 24 年度は、このような成功事例を改めて分析し、お客様に対して課題解決事例としてご紹介できる、「イノウ運輸ソリューション事例」として整備いたします。そしてトラック運送だけではないお客様のロジスティクス全体の最適化に貢献できる提案を進めてまいります。

この過程において構造資産であるコストダウンノウハウの強化を図り、また営業力強化・売上拡大の結果としてベテラン社員の雇用の継続と次世代若手社員の採用を進めてまいります。



図表 14：成功事例の分析・ソリューション事例化

³ OJT：オン・ザ・ジョブ・トレーニング(on-the-job training)。職場での実務を通じて行う従業員の教育訓練。

(3) Gマークの取得

(社)全日本トラック協会が行う、トラック運送事業者の安全性を評価し認定するGマーク制度について、当社は平成25年に取得することをめざします。当社のGマーク取得の目的は以下の通りです。



図表15:Gマーク

- ① 従業員の安全意識を高める
安全管理の強化。

Gマークのトラックへの貼付・各種媒体への表示を通じて、従業員の安全意識、モチベーションを一層高める。

- ② 従業員教育効果

Gマーク取得プロセスにおいて安全性を改めて体系的に学ぶ。また自社の取組みを文書化する訓練を行う。

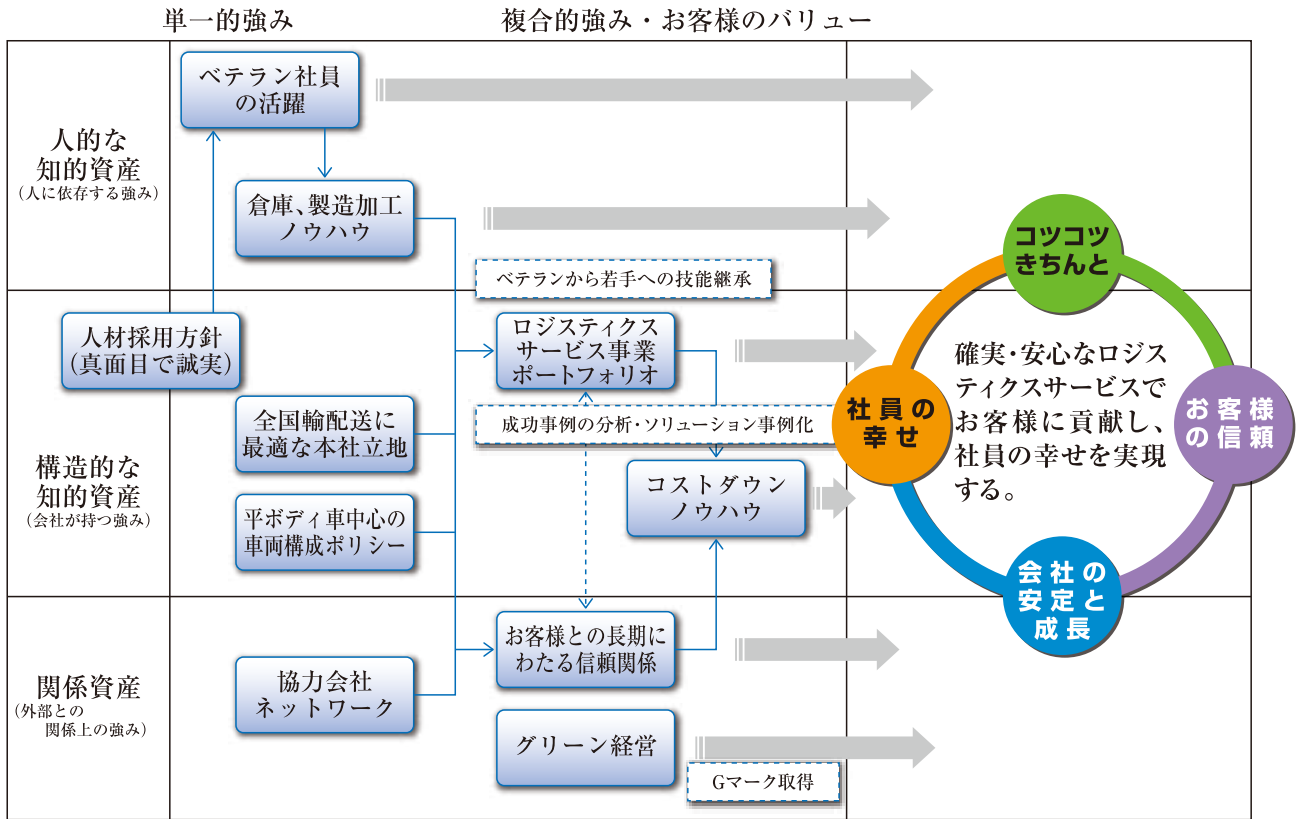
- ③ お客様の信頼向上

安全性優良事業所として「任せられる」「事故をおこさない」というお客様の安心感。



図表16:停車時の車止め

業種は異なりますが、2012年4月に発生した関越自動車道高速バス居眠り運転事故は、この安全意識の欠如のたいへん不幸な結末でありました。当社はこれを他山の石としてとらえ、安全を第一として、确实・安心なロジスティクスサービスを通じてこれからもお客様と社会に貢献してまいります。



図表17: 知的資産経営の平成24年度の展開

5. 企業概要

社名	イノウ運輸株式会社
住所	東京都墨田区向島 3-13-11 イノウ運輸ビル
代表取締役	稲生 道明
事業内容	大型・小型トラック運送、一般貨物自動車運送事業 倉庫業務、流通加工業務 プラント設置工事、産業廃棄物収集・運搬業務
設立	1947年（昭和22年）8月13日
従業員	50名
資本金	1,000万円（第67期：平成23年9月度）



あしがき

注意事項

この知的資産経営報告書に記載しました将来の経営戦略及び事業計画ならびに付帯する事業見込みなどは、全て現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて掲載しています。

そのため、将来にわたり当社を取り巻く経営環境（内部環境および外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には本報告書の内容が将来実施または実現する内容と異なる可能性もあります。

よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来にわたって保証するものではないことを、十分にご了承願います。

問合せ先

商号	イノウ運輸株式会社
住所	東京都墨田区向島3丁目13番11号
電話番号	(03) 3624 6451
担当者名	代表取締役 稲生 道明

本報告書の内容の合理性について

本報告書に掲載された内容は、イノウ運輸株式会社の過去から現在に至る経営環境（内部環境及び外部環境）に照らし、合理的な内容であることを認めます。

2012年8月31日

経済産業大臣登録 中小企業診断士（登録番号 402609）

長島 孝善

経済産業省 中小企業支援ネットワーク アドバイザー

中小企業診断士（登録番号 213170）

宮崎 博孝



イノウ運輸の本社は東京スカイツリーから約400mの至近にあります。
634mのタワーを地震や強風による上下・水平の力から守る基礎を
支えているのは、深さ50mの特殊な「杭」の技術にあるそうです。
イノウ運輸も、しっかりとした杭を地中にはって空に伸びていけるよう、
従業員一同これからもコツコツきちんと成長してまいります。